

ルコトヲ得

第十二條 知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ委任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其委任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

地方 廳
第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支弁スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條 収税長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租税ノ賦課徴収及徴税費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ従事ス

第十七條 収税屬ハ判任トス収税部ニ屬シ収税長ノ指揮ヲ承ケ其主

務ニ従事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監

獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事

故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第廿一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看

地方廳

守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第廿二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第廿三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第廿四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部

中便宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

二、地方税區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項

三、外國人ニ關スル事項

四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事

五、農工商務ニ關スル事項

地方廳

六、他部ノ主宰ニ屬セサル事項

第二部

一、土木ニ關スル事項

二、兵事ニ關スル事項

三、學務ニ關スル事項

四、監獄ニ關スル事項

五、衛生ニ關スル事項

六、會計及公債證書ニ關スル事項

第廿五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

地方廳

第廿六條 前條ニ規定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主宰ヲ定ムルコトヲ得

警察官

第廿七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第廿八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

一、管内高等警察ノ事

二、管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務

ヲ整理スル事

三、管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事

四、管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事

地方地

第廿九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内

地方地

ニ於テ警察分署ヲ配置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ勵行ヲ監督ス其項目左ノ如シ

一、諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項

二、演藝遊觀場遊戲場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項

三、船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項

四、人命夷傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物理藏物ニ關スル事項

地方廳

- 五、傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項
- 六、諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スル等ニ關スル事項
- 七、失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項
- 八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項
- 第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長收稅長郡區長戸長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ
- 第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其

地方廳

- 責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲スルハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス
- 第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得
- 第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二号警視廳官制ニ依リ本令中ノ各項ニ指定スル限ニアラス
- 郡區
- 第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

地方廳

- 第三十八條 郡區長ハ委任四等以下書記ハ判任三等以下トス
- 第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス
- 第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得
- 第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス
- 第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス
- 第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一級ニ告示スルコトヲ得
- 第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ

執行セシムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今后指定セララルヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

地方廳

第四十七條 島司ハ委任三等以下トス

縣廳ハ前記地方官々制ニ依リ第一部(文書、議事、農商、庶務、ノ四課二分ツ)第二部(土木、兵事、學務、監獄、衛生、會計ノ六課二分ツ)收稅部(直稅、間稅、徵收、徵稅費、ノ四課二分ツ)警察本署(警務、保安、主計ノ三課二分ツ)ノ三部一署二分チ各、部長アリ而シテ官吏ノ數ハ

年々増減アリテ一定シ難シト雖氏大率一二ノ兩部ニ於テ百四十餘人
收税吏八百八十人、監獄吏ハ四百人、警察吏ハ七百九十人、合計千三
百六十餘人（委任ヨリ巡查雇吏等ニ至ル全數）ニシテ俸給總額ハ七萬
四千餘圓ナリ

地方 應

本州ニアル郡區役所ハ名古屋區、愛知郡、東春日井郡、西春日井郡、
丹羽郡、中島郡、海東郡、海西郡、知多ノハ役所ニシテ吏員ハ郡長七人區長
一人郡區書記百十人雇百九十人アリ而シテ列ニ二百六十餘人ノ戸長
其部下ニ屬シ戸長ノ下ニ書役アリ這般吏員ノ俸給ハ郡區長五千圓書
記雇二萬九千圓戸長二萬千二百圓書役三千九百圓合計五萬九千百圓
ナリ

各郡役所ノ下ニ戸長役場二百七十一浦役場百二十四（浦役場ハ戸長

役場ト全場ニ在リ）アリ但名古屋ハ廿年三月限り各戸長役場ヲ廢シ
區長之ヲ兼攝ス

收税部ノ下ニ出張所アリ總テ各郡區役所々在地ニ設ケ（所在地ノ地
名ヲ冠稱ス）出張所ニ所長以下數人乃至十數人ノ收税屬出張ス又各
全所ニ第一區ヨリ三河ヲ通シテ第十七區迄租税檢査員派出所（地名
ヲ冠稱ス）アリ其事務ハ出張所ノ吏員兼攝スル者ノ如シ

地方 應

監獄署ハ尾州ニ二個所アリ名古屋監獄署、一宮監獄署是ナリ（名古
屋監獄署ハ登三ツ藏町ニ、其工役分場ハ松重町ニアリ）
警察本部ノ下ニ左ノ警察署及分署ナル者アリテ署長警部或ハ警部補
以下數人乃至數十人各部内ノ警察ニ從事ス（郡村ニハ巡查駐在所ヲ
設ク）

名古屋第一警察署(榮町)、名古屋第二警察署(門前町)、名古屋第三警察署(鍋屋町)、名古屋第四警察署(江川町)、熱田警察署、鳴海分署、半田警察署、内海分署、横須賀分署、前ヶ須警察署、津島警察署、蟹江本町分署、一宮警察署、下袒父江分署、稻澤分署、布袋野警察署、稻置分署、北方警察署、枇杷島警察署、勝川警察署、小牧分署、瀬戸分署、(三州ニ在ル分ハ下巻ニ掲ク)

署區林小大

第二節 大小林区署

營林ノ事務及農商務省所管ノ官有地(官林、山林原野、藪、草生、葎生、芝生ノ類)ヲ直轄處理セシメ爲ニ大林區署ヲ名古屋(矢場町一ノ切白林寺内)ニ置キ小林區署以下ヲ統轄シ署長ハ(奏任)林務官ニシテ林務官補屬官雇等十數人アリ小林區署ハ知多ノ半田東春日井ノ坂下ニ派

所判裁

出所ハ名古屋(各地名ヲ冠ス)ニアリ(三州ノ部ハ此ニ略ス)而シテ這般林区署ニ呈出スヘキ書類ハ總テ郡衙ヲ經由セサルノ制ナリ

第七款 尾張ノ法衙

第一節 裁判所

尾三ヲ管轄スル法衙ハ即チ名古屋控訴院以下數廳アリ詳サニ左表ニ列記セン(控訴院内ニ重罪裁判所アリ本町一丁目、始審裁判所内ニ輕罪治安違警罪ノ三裁判所アリ東外堀町ナリ)

第四十八表

控訴	始審	治安	治安裁判所	出張所	郡	名
名古屋	名古屋	名古屋	勝川	西春日井郡ノ内、東春日井郡ノ内	名古屋區一圓、愛知郡ノ内名古屋	接續村、西春日井郡ノ内

公證人 ○ 師團軍管

蟹江本町	蟹江本町	海東郡ノ内
樽場新田	樽場新田	海西郡ノ内
大高村	高知郡役所	知多郡ノ内
横須賀村	高知郡役所	全上
常滑村	高知郡役所	全上
河内村	高知郡役所	全上
和村	高知郡役所	全上

第三節 公證人

名古屋治安裁判所管轄内一圓ヲ受持區域ト爲ス公證人ハ林義方ト云
フ其役場ハ名古屋呉服町四丁目百三十七番戸ナリ

第八款 尾張ノ兵事

第一節 師團軍管

第三師團ハ名古屋城内舊三ノ廓内ニ在リ衛戍ノ諸兵營及病院等モ亦

師團軍管

同所ニ列置セリ名古屋、愛知、知多、海東、海西、ハ第三師管第五旅管
名古屋大隊區ニ、西春日井、東春日井、中島、丹羽、葉栗、ハ第三師管第
六旅管岐阜大隊區ニ屬ス

第三師管ノ管スル處ハ第五第六ノ二旅管ニシテ第五旅管ハ名古屋、
津、豊橋、静岡ノ四大隊區、第六旅管ハ金澤、富山、岐阜、福井、ノ四大
隊區ナリ

第三師團司令部ノ所在地ハ名古屋、第五旅團司令部モ亦名古屋ニシ
テ、第六旅團司令部ハ金澤ナリ

團隊ノ配備ハ歩兵第六聯隊及第十九聯隊、騎兵第三大隊、砲兵第三聯
隊、工兵第三大隊、輜重兵第三大隊、其諸隊衛戍地ハ名古屋ナリ豊橋
ニハ歩兵第十八聯隊、金澤ニハ歩兵第七聯隊アリ而シテ衛戍各々其

地ニ在リ

第二節 憲兵管區

憲兵隊ハ名古屋ニ本部ヲ置キ(南外堀町六丁目一番地)名古屋憲兵隊ト稱ス勅令第四十三号^{廿二年}憲兵條例ニ依リ其職掌ノ大要ヲ掲クレハ左ノ如シ

憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル(第一條)憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ隸ス(第二條)憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監府縣知事^{東京府ヲ除ク}及檢察官ノ指示ヲ受ク(第三條)本部ノ隊長ハ憲兵中少佐一名副官ハ憲兵大中尉一名ノ制ナリ而シテ

憲兵管區

憲兵隊ハ其管轄地ヲ分畫シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス(名古屋憲兵隊ハ六月一日ヨリ勤務旅行ス)今本州ニ在ル管區及首部ノ位置ヲ表示セン

第五十表

管區	巡察區ノ數	市郡名	首部位置
第一管區	七	名古屋	名古屋南外堀町六丁目
第二管區	五	愛知、知多	熱田旗屋町
第三管區	五	東春日井、西春日井、丹羽、栗原	枇杷島町
第四管區	四	栗中島、海東、海西	一宮

前表中名古屋ニ係ル巡察區憲兵ノ屯所ハ本町、南園町、江川町、鍋屋町、東田町、門前町、橋町ノ七ヶ所、熱田ニ係ル者ハ神戸町ニアリ他ハ之ヲ略ス

憲兵管區

第三節 海軍區

尾州ノ海岸及海面ハ第一海軍區ト稱スル内ニシテ相州三浦郡ニ在ル
横須賀鎮守府ノ管區ニ屬ス

第九款 尾張ノ議事

第一節 市會議員

名古屋市會ヲ開クノ日ニ至ラハ議員ノ數ハ若干ナルヘキ哉市制第十
一條ニ依レハ三十六人ナルカ如シト雖氏市制施行ノ期ニ至ラサレハ
斷言シ難シ

第二節 縣會議員

縣會議事堂ハ名古屋南久屋町縣廳構内ニ在リ(名古屋區議事堂ハ區
役所構内ニ在リ)縣會議員ノ數ハ尾三ノ全員八十三人ニシテ尾州ハ

員議會縣 ○ 員議會市 ○ 區管軍海

五十八人内名古屋區三十三人葉栗、海西、各二人他郡ハ各三人ナリ定
置委員ハ十二人(尾三合員)ニシテ一人ノ月手當金ハ區部三十圓郡部
三十五圓ナリ

第三節 國會議員

帝國々會衆議院ノ議員トシテ來二十三年ニ尾州ヨリ撰出スヘキ數ハ
左表ノ如ク廿二年二月法律第三號ヲ以テ定メラレタリ

標撰	區	議員數	郡市名
第一區	名古屋	一人	名古屋
第二區	知	一人	知
第三區	東春日井	一人	東春日井
第四區	西春日井	一人	西春日井
第五區	葉栗	一人	葉栗
第六區	羽中	一人	羽中
第七區	島海	一人	島海
計	東知多	七人	東知多

第四節 納租人員

納租人員ト云ヘハ其數夥多ナリト雖氏今地租五圓以上ヲ納ムル者ヲ

員人租納 ○ 員議會國

統計スレハ凡ソ三萬九千人ニシテ十圓以上ヲ納ムル者ハ五圓以上ヲ納ムル者ノ内幾ント三分ノ一ヲ減シタル數ニシテ凡ソ二萬六千五百餘人ナリ這般ノ納租者ハ知多ニ最モ多クシテ海西ニ最モ寡少シ即チ左ニ概表ヲ掲示セン(多額納租者ノ多少ハ議員撰舉被撰舉上ニ關係アルヲ以テ掲ケテ參考ニ供ス然レモ十五圓以上ノ納租者ハ今調査中ニ係ルヲ以テ表示セス)

納租人員

第五十二表

郡區	名古屋	愛知	東春日井	西春日井	丹羽	栗中	島海	東海	西知多
五圓以上	一、一〇〇	四、九〇〇	三、七〇〇	三、七三〇	四、六〇〇	一、一五〇	六、四〇〇	四、〇〇〇	一、二〇〇
八圓以上	七三〇	三、二〇〇	二、一〇〇	二、五〇〇	二、八〇〇	七〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	六、五〇
十圓以上	八〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

今一步ヲ進ミ法律第三号衆議院ノ議員撰舉被撰舉權ノ資格ニ関スル十五圓以上納租者ヲ列舉セント欲スレモ未調了ニシテ掲クル能ハス

職業ノ種類及人別

然レモ試ニ前二種ノ納租者ノ數ニ因テ推測スレハ中島郡最多ナルヘシ其次ハ知多其他ハ概ネ十圓以上ノ多寡順ニ從フナルヘシ而シテ其數名古屋ハ凡ソ五百人許其他ノ九郡總計ハ凡ソ一萬四千三百人許ニ下ラサルヘシ姑ラク記シテ以テ他日ノ調了ヲ俟タン

第五編

第五章 尾張ノ商業地理

第一款 尾張全國ノ職業

第一節 職業ノ種類及人別

凡ソ本邦商業家子弟ノ學業ハ年甫テ八歳習字塾ニ入り先ツいろはノ人名ヲ修了セハ町村名及國畫シ商賣往來ヲ以テ普通科ノ卒業ト爲シ

町村名日本國畫シハ即チ今ノ地理學ノ如キ觀ヲ爲シ悠々緩々太平無事地文ノ事ハ姑ク閑キ我棲息スル日本帝國ハ長キ乎圓キ乎如何ナル形狀ノ國ナルヤ極端ヨリ極端マテ若干里程アル乎何國カ廣フシテ何國カ狹キ乎日本ノ海外ニハ漢土朝鮮阿蘭陀ノ外他ニ國アル乎無キ乎這般ノ項サヘ知ル者少ナク但遺傳ノ想像ヲ以テ長崎ハ遠フシテ西ニ在リ出羽與州ハ東北ニ在リ九州ハ暄暖ニシテ北國ハ寒ク京都ニ圓山嵐山アリテ江戸ハ武藏野ナリシ等ノ簡單ナル地理ヲ記憶スル而已ノ蒙昧時代ハ遙カニ過キ去リテ今ハ普通學科ヲ修了セハ更ニ商業學校ニ入校シ専門學科ヲ攻究スルノ文運ニ進メリ故ニ地理學ノ商業上ニ緊要ノ位置ヲ占ムルノ歩ヲ進メ遂ニ地文ニ氣象ニ皆高尚的ノ學科ニ涉リ速キ海外ノ地理ヲモ勞トセスシテ講究スルニ至レリ然レモ一方

別人及種類ノ業職

ヨリ觀レハ是等進歩上速力ノ勢ニ乘シ動モスレハ自國ノ表テヲ乘過スルコトアルハ既ニ往々識者ノ歎スル處ナリ爰ヲ以テ本書此編ヲ加ヘ特ニ學者ノ注意ヲ率キ且參考ノ便ニ供セント欲ス然リ而シテ此編商業ノ文字ヲ冒頭スルト雖モ獨リ商業ノミニ限シ他ニ用ナシトスル者ニアラス農工兩者ハ無論治者被治者軍人及諸科ノ學者ニ於テモ亦汎ク應用セハ其裨益モ亦夥多ナラント信スル者也即チ左ニ叙述セン

尾州ニ棲息スル人類ノ職業トスル種類ハ甚夥多ナリト雖モ要ヲ摘ミ分類スレハ凡ソ左ノ如シ

農、工、商、官員、兵員、教員、神官、僧侶、漁、相撲、俳優、藝人、絃妓、娼妓、前記職業中ニ編入シ難キ種々複雑ノ業ニ從ヒ幾ント定職定務ナキ者ヲ雜業ト名ス(雜業ニモ入り難キ者ヲ無職業トス)然リ而シテ前記中

別人及種類ノ業職

愛		屋	古
女	男	計	女
	七八	一六三	
	四八一	二〇一	
	四三	八三一	一
	九二	三二	
〇〇一	〇六三	〇二四	八二
	九五	三七一	
七九九。五二	四三八。五二	九七〇。二	〇四九
五五七。一	七八六。一	三二六。七一	五一六。九
二五四。二	七一八。三	五五七。六一	〇二五。六
七九一。一	九七六。一	七	
	二	三	
		四五二	五六
九	五	三〇四	七四一
八九一。六	〇五三。六	六二五。三三	二三三。五一
三七一。二二	〇五七。九一	五六六。七五	一九二。三三
三一		八一	八一
六三一		六六四	六六四
〇四〇。〇六	七七八。九五	六一一。〇三一	三二五。六六

尾張ノ商業地理

百八十九

別人及種類ノ業職

名	區郡	職業別人口表
男		
一六三	員官	
二〇一	員兵	
七三一	員教	
三二	官神	
二九三	侶僧	
三七一	師醫	
九三一。一	農	
八〇〇。八	工	
五三二。〇一	商	
七	漁	
三	撲相	
九八一	優俳	
六五二	人藝	
四九一。八一	業雜	
四七三。四二	職無	
	妓藝	
	妓娼	
三九五。三六	計總	

第五十三表

尾張全國ノ職業
 最多數ノ職業ハ農業ニシテ商業之ニ亞キ工業又之ニ亞キ最モ少ナキ者ハ相撲ニシテ絃妓之ニ亞ク、割合ニ多キモノハ僧侶、娼妓、雜業、藝人、俳優、無職業者ナリ最多職業者進退及娼妓等ノ職業者増減ハ大ニ國ノ經濟商業ノ盛衰及風教ニ關スル處アリ輕々ニ看過スヘカラサルナリ左ニ各郡區ニ分配シテ表示セン

尾張全國ノ職業

百八十八

別人及類種ノ業職

丹	井 日 春 西			
	男	計	女	男
七八	三六		三六	
二九	八四		八四	
一三	四二		四二	
二二	二一		二一	
三三二	四四二	〇六	四八一	
八二	三二		三二	
一九七。一二	六四一。〇三	〇九一。五一	六五九。四一	
五七六	一六九。一	一四一。一	〇二八	
四五六。一	三五一。三	四六三。一	九八七。一	
一二	一六	六	五五	
二一				
五	四	三	一	
〇八六。一	八三二。四	一一〇。二	七二二。二	
五四一。四一	六四六。五一	六六〇。八	〇八五。七	
	七二	七二		
六七四。〇四	〇五六。五五	八六八。七二	二八七。七二	

尾張ノ商業地理

百九十一

別人及類種ノ業職

井 日 春 東			知
計	女	男	計
四五		四五	七八
五七		五七	四八一
一二		一二	四三
八一		八一	九二
八八一	七三	一五一	〇七四
八二		八二	九五
六〇四。六四	九九〇。三二	七〇三。三二	一三八。一五
一六六。二	九七一。一	二八四。一	二四四。三
六二五。一	四三七	二九七	九六二。六
七		七	六七八。二
			二
三		三	
四	三	一	四一
二四六。一	一八七	一六八	八四五。二一
九八九。三二	六〇九。一一	三八〇。二一	三二九。一四
			三一
九	九		六三一
一三六。六七	八四七。三七	三八八。八三	七一九。九一一

尾張全國ノ職業

百九十

別人及類種ノ業職

尾張ノ商業地理

島		中		計
計	女	男	計	
七六		七六	九	
九一一		九二	八三	
〇五	一	九四	五	
七一		七一	四	
六〇五	四九	二一四	五三一	
三五		三五	五一	
四三八。七六	九九一。五三	五三六。二三	六五六。三一	
三八八	一三二	二五六	九八二。一	
二一七。三	二二一。一	九八五。二	四〇二。一	
六一	一	五一	五三	
一		一		
五		五	三	
九	二	七	三	
九四二。五	三八九。二	六六二。二	三六九。三	
二六七。八二	一二二。四一	一四五。四一	七三五。九	
三	三			
〇二	〇二		四	
五〇三。七〇一	七七。八三五	八二四。三五	〇〇九。九二	

百九十三

別人及類種ノ業職

尾張全國ノ職業

栗		葉		羽	
女	男	計	女	計	女
	九	七八			
	八三	二九			
	五	一三			
	四	二二			
八三	七九	四三三	一〇一		
	五一	九二	一		
六九二。六	〇六三。七	九二二。二四	八三四。〇二		
〇九八	九九三	六一九	一四二		
六九二	八〇九	三三二。二	九七五		
一	四三	一二			
	三	二一			
	三	六	一		
六〇八。二	七五一。一	二四六。三	二六九。一		
二〇八。四	五三七。四	一一一。一三	六六九。六一		
四		六	六		
三三一。五一	七六七。四一	一七七。〇八	五九二。〇四		

百九十二

別人及類種ノ業職

多		知		西	
女	男	計	女	計	男
	八六	一三			
	三四二	一五			
	一五	二一			
	八二				
六二	七三三	四三一	六一		
	四〇一	七二			
五二一。四三	一四七。一三	三八八。二二	八四八。一一		
六三五。一	四八二。三	八四二	六一		
四三三。三	五〇八。四	八五五	四〇二		
八一二	四二五。二	七〇一	五		
	一				
一	二				
一	四三	一			
九六〇。〇一	四二三。七	四〇三。一	〇一六		
一三七。四二	九〇九。二二	二八四。一一	三三七。五		
一					
七三		五	五		
九七〇。四七	五五四。三七	三四八。六三	七三四。八一		

尾張ノ商業地理

百九十五

別人及類種ノ業職

海		東		海	
男	計	女	男	計	女
一三	〇四		〇四		
一五	八二一		八二一		
二一	四三		四三		
	一二		一二		
八一	八六四	五八	三八三		
七二	七五		七五		
五三〇。一一	六四七。五四	五七二。三二	一七四。二二		
二三二	一九一。三	八四四。一	三四七。一		
四五三	九五七。四	〇八一。二	九七五。二		
二〇一	三八二	七一	六六二		
	一		一		
一	五	三	二		
四九六	三〇六。五	五九八。二	八〇七。二		
九四七。五	三〇五。六二	七七五。三一	六二九。二一		
	五	五			
	六	六			
六〇四。八一	〇五八。六八	一九四。三四	九五三。三四		

尾張全國ノ職業

百九十四

計
八六
四四二
一五
八二
三六三
四〇一
六六八。五六
〇二八。四
九三一。八
二四七。二
一
三
五三
三九三。七一
〇四六。七四
一
七三
四三五。七四一

別人及種類ノ業職

前表ニ由レハ工商二業者ノ最モ多キハ名古屋亞キハ知多愛知農業者ノ多キハ中島亞キハ知多愛知ナリ而シテ名古屋ハ第一者ヲ工、第二者ヲ商、第三者ヲ農トス其農ハ尤モ僅々タリ知多愛知ハ第一農第二高第三工ナリ更ニ前表ノ内ヨリ熱田ニ係ル職業人別ヲ摘記スレハ左表ノ如シ

第五十四表

熱田	
男	
二一	官員
三一	兵員
六	教員
四	神官
三四	僧侶
二一	醫師
二一二	農業
七二六	工業
二一八。一	商業
〇五五	漁業
三	藝人
五二三。二	雜業
八三七。二	無職
	藝妓
	娼妓
七五三。八	計

各業ノ別

職業別	
計	女
二一	
三一	
六	
四	
六四	三
二一	
一九三	九七一
五八二。一	八五六
二〇八。二	〇九九
二七七	二二二
一一	八
六七五。四	一五二。二
五八二。七	七四五。四
三一	三一
八九	八九
六二三。七一	九六九。八

第二節 各業ノ戸別

前節ニ於テ職業人別ヲ摘記シタリ然レモ其人員ハ若干戸ノ生活者ナルヤノ惑問ハ讀者ノ胸間ニ往來スル處ナルヘシ故ニ左ニ職業ヲ大括シテ各縣市ノ戸數ヲ列記ス

第五十五表

各業ノ戸別	
名	市
名古屋	一〇、七九六
商	七、六七九
工	六、五三
耕作	一、八二四
捕魚採藻	六、三五
雜業	四、三七二
無職業	
計	

天産物

重要各業等戸數表									
愛知	春日井	丹羽	丹波	中島	海東	海西	知多	計	
二、八一八	五、六二	一、三二七	九、二二	三、五二	一、八四五	一、七二八	二、〇三	三、四二八	二、三、九八二
一、二七九	八、三九	五、六九	三、六六	二、四五	五、五二	一、二二六	一、三三	二、一二五	一、四、九一三
一、五、四八八	一、四、三〇四	八、八四〇	一、四、四五三	四、七三五	一、七、七七九	一、一、九五二	五、八、一三	一、九、八六五	一、一、三、八八二
八、二九	三	五、三	一、五	二、九	六	一、六九	一、六六	一、五九七	二、八七一
四、六一八	七、六四	一、七三〇	一、三四一	六、八八	二、〇九五	一、九三四	五、〇〇	五、一九六	三、七、一〇七
一、二、二二	四、二一	五、五四	九、一八	二、六九	六、八九	六、三〇	一、二、四	一、四、三四	一、二、六〇二
二、六、二四四	一、六、八九三	一、三、〇七三	一、八、〇一六	六、三一八	二、二、九六六	一、七、五三九	六、九三九	三、三、六四五	二、〇、五、三五七

第二款 尾張ノ産物 第一節 天産物

尾州ハ過半冲積層ノ土壤ナルニ由リ天産物中、鑛物類ニ屬スル者少
 ナシ然レモ又世ニ必用ノ種類寡ナカラズ即チ左ニ
 陶土、岩木、花崗石、白土、磨砂、礫石、胡粉、水節土、石炭、硝子石、雲母、

天産物

前記ノ種類ニ就テ左ニ産地ヲ示サン
 第五十六表

坑物名	産地	名
陶土	愛知郡山口、菱野、東春日井郡大山、外之原、瀬戸、上志段、味、上半田州、中品野、下品野、上水野、赤津、丹羽郡稻置、學傳、知多郡成岩、内海、北方、常滑、與田、上野間、坂井、	
岩木	愛知郡長久手、岩崎、岩作、東春日井郡林、大草、池之内、新居、下原、知多郡布土、上野間、廣目、	
硝子石	東春日井郡野口、	
雲母	愛知郡山口、	
花崗石	東春日井郡上水野、中水野、赤津、岩崎、	
白土	愛知郡長久手、春木、東春日井郡大草、新居、	
磨砂	愛知郡春木、折戸、東春日井郡下原、知多郡板山、上野間、生濱、緒川、荒尾、大田、富水島、布土、	
水節土	愛知郡山口、岩作、	
礫石	東春日井郡池之内、	

第三節 製塩

尾州ノ製塩業ハ其来歴太々古シ然レモ僅カニ知多ノ五ヶ村ニシテ塩田ノ面積ハ十町歩ニ過キス産額ハ一年二千七百石餘皆火カラテ製ス今其村名ヲ掲クレハ左ノ如シ
藤江、有脇、成岩、常滑、野間、

第四節 農産物

尾州ノ農産物ヲ調査シテ重要ナル者ヲ列記スレハ左ノ如シ
米、大麥、裸麥、小麥、大豆、粟、黍、蕎麥、蜀黍、甘藷^{サツマイモ}、實綿、菜種、藍葉、葉烟草、甘蔗

前記ノ種類生産地ハ、米、第一海東、第二知多、第三愛知、大、裸、ノ二麥ハ第一愛知、第二海東、第三丹羽、小麥ハ海東、愛知、中島、大豆ハ知

多愛知丹羽、粟ハ丹羽東春日井知多、黍ハ中島丹羽愛知、蕎麥ハ知多東春日井丹羽、蜀黍ハ愛知知多中島、甘藷ハ知多中島葉粟、藍葉ハ中島海東丹羽、葉烟草ハ愛知東春日井丹羽、甘蔗ハ丹羽知多中島、實綿ハ愛知知多中島、菜種ハ西春日井知多愛知、製茶ハ丹羽東春日井知多ナリ其他各郡孰レモ生産アリト雖モ其獲量ニ於テハ前記ノ郡ニ如クモノナシ

尚一步ヲ進ミ前記諸種ノ收穫高ヲ查察スルニ米ハ七十五萬石、麥ハ三十六萬石、小麥ハ九萬石、大豆ハ四萬石、粟三萬六千石、黍二萬三千石、蕎麥一萬千石、蜀黍一萬五千石、甘藷四百十四萬貫目、藍葉百一萬貫目、葉烟草十一萬貫目、甘蔗五十六萬貫目、實綿百七十三萬貫目、菜種四萬五千石、製茶三萬七千貫目ナリ

第五節 著名ノ農産

尾州特有著名ノ産物ハ宮重大根(中島郡)方領大根(海東郡)藤ヶ瀬百合、戸倉蓮根(并ニ海西郡立田輪中)大高菜(知多郡)ナリ

第六節 蠶業

養蠶業ハ漸々進歩ノ景況ニ至レリ今齒ノ總産額ヲ調査スルニ大率壹萬石ヲ産シ最多額ハ丹羽、亞キニ葉栗、亞キニ東春日井トス最少額ハ海東及海西ナリ而シテ春夏秋ノ三回ニ産スト雖モ春ヲ第一トシ夏其半ヲ産シ秋ハ甚々僅少ナリ

第七節 牧畜

牧畜ハ太々僅少ナリ牛ノ總數ハ七百頭ニ滿タス其内外國種ハ三分ノ一二庶シ今其使用目的ヲ區分スレハ十分ノ四ハ農用、十分ノ一ハ繁殖

著名ノ農産 ○ 蠶業 ○ 畜牧

山林

殖用、十分ノ四ハ搾乳用、十分ノ一ハ運搬用トス農用ハ知多ニアリ繁殖用搾乳用ハ名古屋ニ多シ而シテ總數ハ知多ニ最モ多シ(總數ハ三州ノ大率三分ノ一)

馬ノ總數ヲ算スルニ凡ソ千四百三十頭皆内國種ニシテ其使用ハ十分ノ六弱農用、十分ノ四強運搬用、農用ノ多キハ知多ニシテ運搬用ノ多キハ東春日井及愛知ナリ而シテ總數ノ最モ多キハ知多郡トス

第八節 山林

尾州ノ山林中官林ノ箇所面積ヲ調査スレハ總數二千六百三箇所ニシテ知多ニ最モ多ク之ニ次ク者ハ東春日井及丹羽愛知トス其面積ハ一萬二千八百餘町歩ニシテ此多寡ノ差比モ亦個所ノ順ノ如シ他ノ各郡ハ其數多カラス故ニ之ヲ列記セス

氏林ノ総面積ハ無慮一萬町歩アリ東春日井最多ニシテ愛知之ニ亞キ丹羽知多又之ニ亞ク其他各郡ハ算スルニ足ラス而シテ這般ノ林地ハ概ネ山林ニシテ平坦廣漠ナル森林ニ乏シ又林相ヲ觀察スルニ孰レモ濫伐ノ餘害猶未タ癒ヘス蓄鬱タル森林ハ絶テ見サル處ナリ人口繁殖シ工業興ルニ隨ヒ用材及薪炭ノ需用益々多クニ赴クヘキハ數ノ免カレサル處ニシテ這般二者ハ森林ヲシテ疎々寒林ノ如クナラシムノ原因ナレハ疾トニ之ニ對スルノ備ナカルヘカラス噫尾州ノ山林所有者ヨ油斷ナク殖林上ニ注意スヘシ(予尾張殖林策ヲ抱懷ス他日之ヲ述ヘン)

第三款 尾張ノ工業

第一節 重要製造品

品造製要重

品造製要重

重要ノ製品ハ磁器、陶器、七寶器、扇子、漆器、綿糸、有松絞、ニシテ磁器ハ東春日井郡瀬戸及赤津、陶器ハ瀬戸赤津及知多郡ノ常滑、七寶器ハ名古屋及海東郡、扇子漆器綿糸ハ名古屋有松絞ハ知多郡ノ有松及名古屋ナリ這般物産ノ過半ハ海外輸出品ニ屬スルカ故、輸出ノ商況如何ニ由リ製造額モ亦大差違ヲ生シ固ヨリ一定ノ標準ナシト雖氏近年ニ於テハ凡ソ左表ノ如シ(織物製絲ハ固ヨリ重要ナリト雖氏記事稍ヤ精細ヲ要ス故ニ此ノ二種ハ之ヲ特節ト爲シ次節以下ニ説カン)

第五十七表

品	金額
綿	七五〇、〇〇〇円
絲	二三〇、〇〇〇円
磁器	一六〇、〇〇〇円
有松絞	一一五、〇〇〇円
陶器	五二、〇〇〇円
七寶器	六五、〇〇〇円
扇子	三三、〇〇〇円
漆器	三三、〇〇〇円

第二節 製絲

生糸ハ丹羽葉栗及名古屋ニ於テ専ラ製シ、他郡ハ甚タ僅少ナリ今其
總額ヲ調フルニ五千百十貫目ヲ製シ、真綿ハ僅々二百貫目ニ過キス
蠶卵紙ハ三千二百枚ニシテ重モニ名古屋丹羽葉栗東春日井ニ於テ製
出ス

第三節 織物

尾州ハ木綿及木綿縞製産ニ有名ナリ絹布及絹綿交織(結城縞等)雜織
物モ亦製産ス其産地木綿ハ知多ヲ最多トシ中島葉栗名古屋之ニ亞キ
結城二子等ノ木綿織物ハ中島葉栗及名古屋ニシテ他ノ各郡多少アリ
其産額百六十萬反價金七十一萬圓ナリ結城縞二子織等絹綿交織物ハ
中島ヲ最多トシ葉栗郡名古屋之ニ亞ク其産額凡ソ五十二萬反價額五

物織 ○ 絲製

工業及社會製造所

十二萬圓絹織ハ名古屋ヲ最多トス而シテ木綿及結城縞等ノ輸出先ハ
東京ナリ然レモ結城縞ノ如キハ東京ニ於テ需用スルモノニ非ス與羽
地方ニ需用スルモノ多シト云

第四款 尾張ノ諸會社及製造所

第一節 工業會社及製造所

工業上會社組織ヲ爲ス製造所ハ四十五有テ資金ハ五十萬圓以下百圓
以上及勞力資本ナル者アリ今壹萬五千圓以上ノ者ヲ左ニ表示セン

第五十八表

業名	名	稱	位	置	業名	名	稱	位	置
綿糸	尾張	紡績會社	熱田	新尾頭町	織物	愛知	物産	組	名古屋高岳町
全	名古屋	紡績會社	名古屋	正木町	釀酒	名古屋	酒類	組	名古屋高岳町
建築	名古屋	建築會社	全	橘町	織物	尾張	織工	會社	名古屋小島
電燈	名古屋	電燈會社	全	長島町	土木	木	會	社	名古屋飯田
藍玉精	藍	會社	全	大船町	製糸	愛	生	會社	名古屋飯田

第三節 銀行

國立、私立、ノ銀行位置ヲ列記スレハ左ノ如シ

第六十表

名	稱	本店位置	創立年月	株金	名	稱	出店位置
第百卅四國立銀行	名古屋船入町	三井銀行名古屋出張店	十二年四月	卅万圓	三井銀行	名古屋傳馬町	
第十一國立銀行	茶屋町	第九十五國立銀行支店	十年七月	廿万圓	第九十五國立銀行	茶屋町	
第四十六國立銀行	傳馬町	第百三十國立銀行	十二年二月	廿万圓	第百三十國立銀行	傳馬町	
名古屋銀行	町	名古屋支店	十五年七月	廿万圓	名古屋支店	町	
伊藤銀行	茶屋町	第一國立銀行出張所	十四年八月	十萬圓	第一國立銀行	町	
宮銀	茶屋町	三井銀行半田出張店	十四年十一月	十萬圓	三井銀行	知多郡半田村	
熱田銀行	神戶町		二十二年十月	十萬圓			

第五款 尾張ノ交通

第一節 道路

(一) 國道ハ東海道(第二号線)名古屋街道(第十号線)岐阜街道(第十七

尾張ノ商業地理

号線)美濃街道(第十八号線)ノ四線アリ悉ク平坦ニシテ諸車通行障碍ナシ

(二)縣道ハ十五線アリテ概ネ平坦ナリト雖ヒ山部ニ至テハ稍々傾斜ノ路線ヲ見ル而シテ知多最南ノ一里許ハ腕車通シ難シ

(三)里道ノ數ハ許多ニシテ到底計算スル能ハス今假ニ三等ニ別チ一等及二等ノ者ヲ算フレバ凡ソ五十餘線アリ(予築路改良ニ就テ聊カ鄙見アリ次卷ニ之ヲ述ン)

以上三種ノ内、國縣道ヲ表示スレハ左ノ如シ

第六十一表

國	號	名	里程	號	驛	名	里程	號	驛	名	里程
二	自	知立至熟田	四・三三・五	十	自	熱田至名古屋	二・四二・四	第	(自清洲至四ツ屋)	一・二四・三	
				十	自	名古屋至清洲	二・一九・四	十	自	四ツ屋至稻澤	一・〇七・八

路 道

第六十二表

道号	自	至	須	号	自	至	驛	号	自	至	驛			
	自	熱田	至	福田	七	自	清洲	至	一宮	八	自	稻澤	至	萩原
	自	福田	至	前ヶ須	自	一宮	至	岐阜縣界	自	萩原	至	岐阜縣界		

尾張ノ商業地理

街道名 首 末 地 名

下夕街道 名古屋ヨリ内津ヲ經テ多治見ニ至ル
 百曲り街道 名古屋ヨリ熱田新田西組ニ出テ明德橋ニ至リ東海道ニ合ス
 稻置街道 名古屋ヨリ稲置ニ至ル
 津島街道 名古屋ヨリ津島ニ至ル
 瀬戸街道 名古屋ヨリ瀬戸ニ至ル
 巡見街道 名古屋ヨリ須賀川ニ至ル
 岩倉街道 名古屋ヨリ小折ニ至ル
 新街街道 名古屋ヨリ三州碧海郡柿崎ニ出テ東海道ニ連絡ス
 飯田街道 名古屋ヨリ信州伊奈郡坂田ニ出テ飯田ニ至ル
 舉母街道 名古屋ヨリ三州舉母ニ至ル
 上田街道 名古屋ヨリ津島ニ至ル
 半田街道 名古屋ヨリ半田ニ至ル

常滑街道 鳴海ヨリ常滑ニ至ル
 師崎街道 三州知立驛ヨリ師崎ニ至ル
 大濱街道 大高ヨリ三州碧海郡大濱ニ至ル

第二節 鐵道

尾州ニ鐵道布設ノ起エアリシハ指ヲ屈シテ既ニ數年前タリシヲ知ル
 即チ十八年八月一日ノ事ニメ武豊掘川間(名古屋)先ツ成リ尋テ掘川
 木曾川間成功シ(武豊線主任ハ木村技手木曾川以南ハ佐武技手今ハ
 共ニ技師タリ)其開通ハ十九年三月一日熱田武豊間、今年四月一日熱
 田清洲間、今年五月一日清洲一宮間、今年六月一日一宮木曾川間、廿
 年四月廿五日木曾川加納間(今岐阜ト改ム)ナリ尋テ東海道線ニ着手
 成功シ廿一年九月一日大待濱松間ヲ開通セリ爾來尾三兩國ハ交通ノ
 方法一變シ商工奮起ノ端ヲ開ク加之東京神戸間連絡セシヨリ(廿二

鐵道

年七月一日)利用大ニ發達シ殊ニ名古屋ハ東京神戸ノ中心ニ位スル
 カ爲メ列車ハ毎日上下十數回ノ出入アリ實ニ交通至便ノ福利ヲ得タ
 リト謂ヘシ今其要用ナル線路ノ哩程ヲ左ニ示サン(別ニ木曾川鐵橋
 ノ圖ヲ挿サム)

鐵道

表三十六第

上		リ		哩數		哩數	
東京至	哩	名屋リ計	停車場	哩	鎖	哩	鎖
二	三	五	二	九	四	五	五
二	三	二	一	四	五	五	九
二	三	一	一	五	九	〇	七
二	三	〇	二	〇	二	七	四
二	三	〇	〇	五	五	二	三
一	九	〇	三	三	四	四	七
一	九	〇	三	四	七	六	六

表四十六第

下		リ		哩數		哩數	
神戸至	哩	名屋リ計	停車場	哩	鎖	哩	鎖
一	四	一	〇	二	三	三	九
一	三	六	四	三	〇	四	三
一	三	〇	四	七	七	五	二
一	三	六	七	五	一	一	二
一	三	二	一	五	一	一	二

上表要驛中間ノ各驛ハ之ヲ略ス

尾張ノ商業地理

表七十六第

下リ各要所		
哩數 (名古屋ヨリ)	停車場	哩數 (停車場間)
哩 鎖		哩 鎖
四九。〇三	名古屋	四九。〇三
九三。七一	米原	四四。六八
一二〇。五五	京都	二六。六四
一四一。〇二	大坂	二〇。二七
	大津	

表八十六第

名古屋敦賀間要驛		
哩數 (名古屋ヨリ)	停車場	哩數 (停車場間)
哩 鎖		哩 鎖
六八。五八	名古屋	六八。五八
七九。二六	柳ヶ瀬	一〇。四八
	敦賀	

二百十七

(名古屋大符間ノ驛ハ本表ニ略ス)

表五十六第

名古屋武豊間		
哩數 (名古屋ヨリ)	停車場	哩數 (停車場間)
哩 鎖		哩 鎖
一二。一〇	名古屋	一二。一〇
一八。三九	大府	六。二九
二一。一四	半田	二。五五
二四。六四	武豊	三。五〇

尾張ノ交通

表六十六第

上リ各要驛		
哩數 (名古屋ヨリ)	停車場	哩數 (停車場間)
哩 鎖		哩 鎖
六七。五三	名古屋	六七。五三
一一五。〇八	濱松	四七。三五
一八六。三五	静岡府	七一。二七
二一七。二九	國府	三〇。七四
二三五。二九	横濱	一八。〇〇
	新橋	

(要驛中間ノ各驛ハ之ヲ略ス)

二百十六

道 鐵

表九十六第

表刻時着發屋古名

車列リ下		車列リ上	
后午	前午	后午	前午
一〇六二 、 一〇一〇 〇五〇 着止	一九五 、 五四〇 〇五〇	一〇六二 、 一〇一〇 〇五〇 着止	一六一 、 〇〇〇 〇〇九

表十七第

表刻時着發線豐武

着符大		發豐武		着豐武		發符大	
前	前	前	前	后	后	后	前
一 一六 、 三三 五五	一 〇五 、 四四 〇〇	一 〇五 、 四四 〇〇	一 〇五 、 四四 〇〇	六 三九 、 三五五 〇五〇	六 三九 、 三五五 〇五〇	五 三〇 、 三〇五 五〇五	八 三五 、 五〇五 五〇五

○乗客賃金ハ下等一哩一錢(一哩ハ八十鎖ナリ一哩未滿ハ四捨五入ヲ以テ賃金ヲ計算ス故ニ賃金ハ錢位ニ止ム)中等ハ二錢、上等ハ三錢トス若シ各驛ノ賃金ヲ知ラント欲セハ哩數ニ定額ヲ乘スヘシ

○發着時間ハ時々變更スルコトアラシキ故ニ名古屋ヲ發スルモノト武豐線トノ外ハ茲ニ示サス

○第七十表ニハ掲ケサレ居午前八時名古屋發武豐ニ至ルモノアリト聞ク

廿二年七月一日ヨリ施行ノ乗車切手通用期限ハ左ノ如シ

一五十哩未滿

一日

但シ切手ニ表記スル「ステーション」マテ乗車一度ノ用ニ限ルモノニシテ途中「ステーション」ニ下車シ再ビ同切手ヲ以テ其後ノ列車ニ乗ルコトヲ得ス

一五十哩以上百哩未滿

二日

但シ發行當日ヲ併算スルモノニシテ右日數ヲ限り途中何レノ

道 鐵

「ステーション」ニテモ下車シ再ヒ乗車スルコトヲ得ヘシ以下皆同シ

一百哩以上二百哩未満 三日
 一二百哩以上三百哩未満 四日
 一三百哩以上 五日

第三節 海運

陸ニ瀛車運輸及國縣里三道ノ便アリ海ニ瀛船風走帆船及和船アリテ陸ノ運輸ニ競フ實ニ交通運輸競争ノ社會トナリ大ニ一般商業家ヲ輔クルノ資料ヲ得タリ今左ニ瀛船ノ發着時間及賃金表ヲ示サン

第七

熱田發四日市行	前九時	上等金三十五錢
	前一時	中等金二十五錢
		下等金二十錢

郵船會社ノ半田橫濱航海ハ賃金ノ外端船賃ニ

運海

表一十

瀛船發着時間及賃金		船發着時間		船發着時間		船發着時間	
全	津行	全	神社行	全	桑名行	全	知多大野行
	前九時		前九時		前八時		前八時半
	前九時		前八時		前八時半		前三時
上等金	五十五錢	上等金	四十五錢	上等金	三十五錢	上等金	二十五錢
中等金	四十五錢	中等金	三十五錢	中等金	二十五錢	中等金	十五錢
下等金	三十五錢	下等金	二十五錢	下等金	十五錢	下等金	十錢
上等金	四十五錢	上等金	三十五錢	上等金	二十五錢	上等金	十五錢
中等金	三十五錢	中等金	二十五錢	中等金	十五錢	中等金	十錢
下等金	二十五錢	下等金	十五錢	下等金	十錢	下等金	五錢

錢五厘ヲ取り往復客ノ賃金ハ上等八圓中等五圓五十錢但端船ハ小瀛船ヲ用ヒ海岸ニ待合所ヲ設タリト而ノ發日ハ未定期三日目乃至五日

目ノ大概丁日ヲ以テス其間日ニ於テハ半榮社瀛船ノ航海モアリト云「名古屋熱田及各郡ノ商業家等ハ熱田港ヨリ東京橫濱及大坂神戸ニ向テ直航スヘキ瀛船ナキヲ患ヒシ由ナリシガ便宜會社支店ハ保田沖ヨリ該四港ニ直航スルト爲セリ是等ノ海運會社ガ今一步ヲ進ミ定期航海ト爲シ健船ヲ擇ミ運賃ヲ廉ニシ一層規則ヲ確實ニシ以テ航業ヲ

擴張シ以テ其港ヲ壓スルノ勢ト爲ラハ當ニ商業家ノ便利ノミナラス亦尾州ノ繁榮ヲ増進スヘシ

漁船航海ハ既ニ前記ノ如ク略ホ備ハレリ而シテ尚他ニ風帆船及日本形船カ飛脚船ノ如ク近海ニ航行シ大ニ運輸ノ便ヲナスモノアリ今其營業許可ヲ得テ日々若クハ定期若クハ未定期發航スル客ナル船ノ發着地中重モナル者ヲ摘記スレハ左ノ如シ

海 運

- 名古屋發 桑名行、四日市行、若松行、白子行、津行、松坂行、大港、神社行、^{ヤラダ}八幡行(知多)、大野行、常滑行、大谷行、野間行
- 熱田發 桑名行、四日市行、若松行、白子行、津行、松坂行、大港、神社行、橫須賀行、大野行、常滑行、小鈴谷行、島行(三州渥美郡)
- 橫須賀發 名古屋行、日光川行

海 運

- 八幡發 桑名行
- 大野發 桑名行、四日市行、若松行、津行、大港行、橫須賀行
- 常滑發 桑名行、四日市行、若松行、熱田行
- 小鈴谷發 桑名行、四日市行、若松行
- 野間發 桑名行、四日市行、若松行、白子行、津行、大港行、豊橋行、常滑行、熱田行
- 師崎發 日間賀島行
- 大井發 日間賀島行、篠島行
- 豊丘發 日間賀島行、篠島行、半田行
- 河和發 日間賀島行、篠島行、平坂行
- 武豊發 平坂行、大濱行、北大濱行

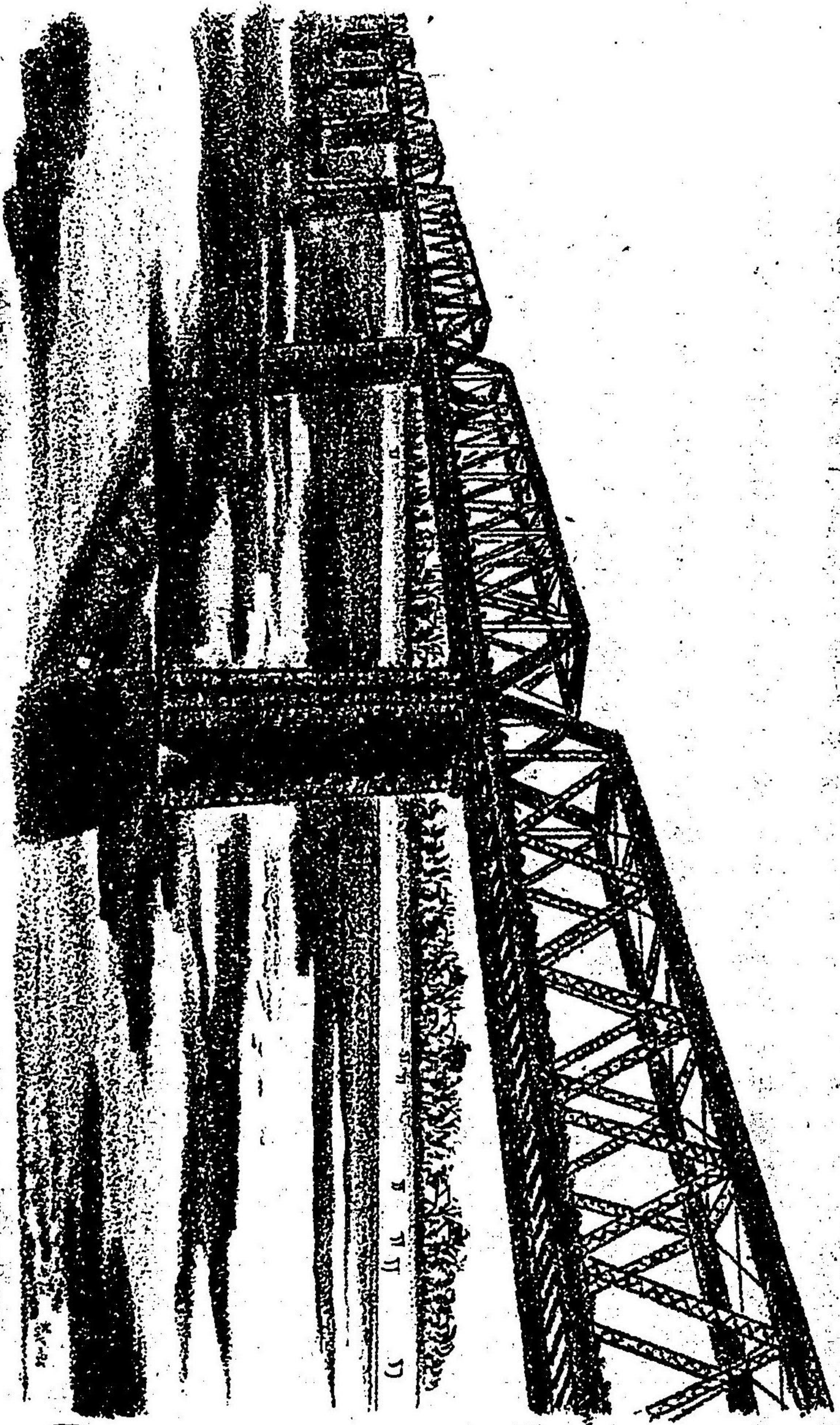
○半田發 大濱行

以上列記スルモノ、外諸港ノ内ヨリ不定期京濱神坂及鳥羽紀州等ノ諸港へ速航スルモノアリト雖、元長ヲ恐レ之ヲ略ス

第四節 河運

河 運

運輸ノ利ハ陸路海洋ノミナラス河上ノ通運モ亦甚利アリ殊ニ生産ヲ促カシ商業ヲ勵マス等ノ媒分ニ至テハ大ニ陸運ニ勝ル處ナリ故ニ舟楫行ルヘキノ流水大船浮ムヘキノ河湖多ケレハ其國必ス繁昌ス水運ノ便ナキ地方ニシテ能ク農業ニ進ミ能ク工業ヲ開キ能ク商業ニ熱鬧ナルモノアルヲ聞カサルナリ然リ而シテ人若シ我尾州ハ天然河ニ乏シキ乎將タ人爲河ニ乏シキ乎ヲ問ハ、共ニ乏シカラスト答フルノ外ナカルヘシ然レ、其通運用ヲ爲スモノヲ問フニ至テハ如何ノ言ヲ以



大曾川・津・東車鐵道

河 運

テ答ヘント欲スル乎予ハ未タ明言スル能ハサルナリ」三州東北ノ如キ山國ニ於テハ養田水ハ一二天水ニ任セ河流ハ概子岩ヲ摧キ曲ヲ矯メ以テ通運ヲ計ラント欲スルモノナレト我尾州ノ流水ハ渾テ之ニ反シ田畝灌溉ヲ主トスルモノニシテ所謂通運ヲ以テ目的トスルモノニ非ス是レ國土ノ形狀平坦多キカ爲メ至ル處皆田畝ニシテ發スルノ水量ヨリ寧ロ用フルノ容量多シ水ヲ引キ川ヲ穿ツハ一二灌溉ノ爲ナリ水理ヲ講明スルモ亦一二灌溉ノ爲ナリ之ヲ要スルニ地理上養田用ノ水アリテ通運上ノ水ナケレハ其利用スル處勢自ラ一方ニ偏倚シ若シ運輸ヲ企テ之カ利便ヲ兼用セント欲スルモノアレハ概子沿川ニ障礙ヲ構ルノ傾キアルカ爲ニ遂ニ之カ利便ヲ兼用スル能ハス況ンヤ新ニ運河ヲ開ク如キニ至テハ其苦情ノ百出想像スヘシ這般ノ事情ニ由テ

國ノ開盡セシ割合ニハ獨リ通運用川ノ數ニ不足アルモノ、如シ今通運上ニ利用シ得ル河流ヲ列記スレハ左ノ如シ

水曾川○鍋田川○後川（水曾川改修ノ爲本年末ヨリ築留メラル、ナルヘシ）○佐屋川（同上ニシテ數年間ニ廢川トナルヘシ）○日光川勝幡橋以下○領内川西川端以下○蟹江川須成以下○新川平田橋以下○庄内川明德橋以下○山崎川山崎橋以下○堀川○水津用水（水曾川堀川間用水時外ニ限ル）

第五節 郵便電信

名古屋ニ一等郵便電信局（榮町三丁目）ヲ設ケ半田及一宮ニ二等電信局ヲ置キ今將ニ熱田ニ新設セントス（三州地方ノ局ハ次卷ニ掲ク）而シテ尾張全國ニ四十ノ三等郵便局ヲ設置シ音信交通ノ便ニ供フ左ニ

三等郵便局ヲ表示ス

（本邦郵便ノ創始ハ明治四年ニシテ全國一統ニ施行セラレシハ五年ナリ電信線ヲ東海道ニ設ケラレシモ亦五年ナリ）

表二十七第

表 局 便 郵 等 三									
張					尾				
知	海	海	中	栗	丹	尾	東	西	愛
多	西	東	島	栗	羽	東	春	西	知
貯	貯	貯	貯	貯	貯	貯	日	春	貯
師	横	津	起	黒	稻	井	井	日	鳴
崎	須	島	田	田	置	津	清	井	海
貯	賀	神	替	替	替	替	洲	貯	替
常	龜	八	一	布	袋	勝	枇	替	熱
滑	崎	守	宮	野	野	川	杷	田	田
貯	貯	貯	貯	貯	貯	貯	島	貯	貯
大	内	甚	稻	學	學	瀨	島	平	平
符	海	目	澤	傳	傳	戸		針	針
貯	貯	寺	替	貯	貯	貯		貯	貯
野	大	貯	下	岩	岩	坂		下	下
間	野	蟹	祖	倉	倉	下		一	一
貯	貯	江	父			大		色	色
武	半	本	江			森		岩	岩
豐	田	町	貯			替		作	作
	貯	貯	安			小			
	河	河	賀			牧			
	和	和							

本表中替ハ爲替局貯ハ貯金預リ所ノ局ナリ

第六節 市街及勝邑

名古屋ハ愛知郡内(地理上愛知郡内ニ分在スレ^レ行政上獨立ノ市ナリ)ニアリ其位置郡ノ北西ニシテ北ハ西春日井ニ接シ南ハ熱田市街ニ連ル其形状不等邊三角ニシテ地盤小シク高低アルヲ以テ上町下町ノ俗稱アリト雖^レ其大觀上ニ於テハ平坦ニシテ而^レ四隣郡村地ニ比スルニ至テハ一層昂燥ノ土地ナリトス之ヲ今一段ニ説カハ此地素ト北東ヨリ亘リ中央ニ隆ク南方ニ狭ク而^レ漸長セル小丘陵ナリキ築城開巷ノ際之ヲ鑿平壑闢セリト雖^レ其古ト丘頂陵上ナル者ハ尚自ツカラ僅ニ高ク其潤底陵脚ナル者ハ尚自ツカラ僅カニ低ク自然地勢ノ間ニ於テ當時ノ痕跡全ク滅盡セサル者ノ如シ然リ而^レ城池即チ如今ノ

市街及勝邑

第三師團北部ニ構ヘ井字形ノ街衢即チ碁盤割ノ巷陌ハ中央部ニ繁昌シ城西ニ美濃街道即チ枇杷島口通シ城北稻置街道即チ清水口アリ城東ニ下街道(美濃ニ至ル)瀬戸街道即チ大曾根口有リ其南東ニ舉母往還即チ駿河町口アリ城ノ西南ニ柳街道即チ彌宜町口有リ城南ニ直線ナル熱田道西折セシ津島街道(曰ハ佐屋街道ト云)即古渡口通ス而^レ巷陌四方ニ列シ通計二百七十七ヶ町ヲ成ス其最モ繁昌ナル者ハ本町通傳馬町通榮町通京町通鹽町通大須門前及前記路線等ニ當ル諸町ニシテ運河即チ堀川ハ城西ヨリ南部ニ向テ鑿チ以テ熱田港ト相通シ鐵路ハ榮町傳馬町兩路線ノ西端笠島町ヲ南北ニ横ハリ以テ東西兩京ニ連絡シ以テ南北兩港(武豊敦賀)ニ貫通ス實ニ四通八達交通至便至利ニシテ本邦第四ノ好都會ナリ

市街及勝邑

市街及勝邑

全市ノ經環線ハ總計七里五丁ニシテ其内西春日井郡ニ接スルモノ一里十丁愛知郡ニ係ルモノ五里三十一丁ナリ位置ハ東經百三十六度五十二分五十秒ニ始リ百三十六度五十六分四十一秒ニ至ル北緯三十五度八分三十一秒ニ起リ三十五度十一分二十八秒ニ盡ク廣袤ハ廣一里十一丁十五間(東ハ古出来町西ハ千歳町ヲ極点トナス)ニシテ袤一里十四丁(南ハ古渡町北ハ深井町ヲ極点トシ真方位ニ由ル測量セリ)ナリ四方ノ極地ハ東端古出来町西端八坂町ニシテ南端古渡町北端深井町ナリ高距ハ低地三十尺昂地四十八尺許アリ磁差ハ明治十六年ノ觀測ニ於テ(地質局)偏西四度三十分三十六秒傾斜四十九度九分四十二秒ナリ地積ハ零方里八分八厘ニシテ尾州總積ノ大率千分ノ九弱ヲ占ム(此面積ヲ以テ東京ノ面積ニ比較スレハ此積ハ三平方里二分八厘

市街及勝邑

小ナリ即チ東京ノ大率百分ノ二十一ニ當ル試ニ東京某區ニ匹敵スヘキヤヲ調査スルニ神田、本郷、下谷、淺草ノ四區合積ト殆ント等シ又大坂ニ比スレハ零里一分一厘小ニシテ京都ニ較フレハ零方里三分小ナリ)戸數ハ四萬三千七百二十四戸(借家居住ハ三萬二百三十余戸ニシテ空家ノ數ハ四千三百余軒アリ)即チ尾州總戸數ノ大率五分ノ一強ヲ占ム(此戸數ヲ以テ東京市十五區ニ比スレハ二十五萬九百二十六戸少ナシ即チ東京戸數ノ大率百分ノ十五ニ當ル又其某區ト等シキ數ヲ精査スレハ本郷、下谷ノ兩區又ハ麴町、赤坂、四谷、牛込、小石川ノ五區合計ト粗ホ庶シ而シテ大坂市四區ニ比スレハ四萬八千二百五十二戸少ナシ即チ大坂戸數ノ粗ホ二分一弱ニ當ル之ヲ某區ト等シキ數ヲ精査スレハ西北兩區ニ稍ヤ庶シ又京都市ニ比スレハ二萬八百

市街及勝邑

二戸少ナシ即チ京都戸數ノ粗三分ノ二強ニ當ル人員ハ現住十四萬四千二百二十五人(男七萬二千七百十人女七萬千四百十五人)ニシテ尾州總計ノ粗ホ十七分ノ一強ナリ(現住人員ヲ以テ東京市十五區ニ比スレハ百二萬九百余人寡ナシ即チ東京人員ノ大率八分ノ一二當ル之ヲ其某區ト等シキ歟ヲ精査スレハ東京最多人口ナル京橋區ノ人員ト等シ而シテ大坂市四區ニ比スレハ二十八萬七千九百人許少ナシ即チ大坂人員ノ大率三分ノ一強ニ當ル又京都市ニ比スレハ十二萬四百余人少ナシ即チ京都ノ大率二分ノ一強ニ當リ下京ヨリ八千八百余人多シ又横濱ヨリ二萬九千人神戸ヨリ四萬余人金澤ヨリ四萬七千五百人廣島ヨリ六萬人仙臺ヨリ七萬二千六百人多シ又鹿兒島、熊本、函館、新潟、堺、岡山等ノ諸市ニ三倍以上、長崎、福井、高松、静岡ニ粗ホ四倍

ノ人口ナリ)

市街及勝邑

商業ハ萬商備ハリテ取引モ亦巨大ノモノアリ工業ハ近來豪商ノ起手スル處アリテ大ニ其面目ヲ改メタルガ如シ然レモ職工ノ如キニ至テハ資ヲ投スルノカラナキニ因ル乎性ノ然ラシムル處アル乎將タ製造數ノ多カラサルニ由ル乎三市ノ職工ニ比シテ甚タ拙劣ナルモノアルヲ如何セン今輸出品ノ重ナル者ヲ調フレハ陶磁器漆器材木綿糸織物米穀扇子七寶器繡箔品麥藁紐粗製菓子等ナリ又市中高貴同業者多キモノハ酒味噌油薪炭紙履物藥種吳服太物洋反物和洋小間物古着古道具骨董陶器烟草菓子砂糖割烹米穀ノ類ナリ職工ノ同業多キハ大工塗師扇子團扇石工建具指物木挽左官鍛冶繡箔鋸裁縫佛具彫刻等ナリ而シテ物産ト稱スヘキモノハ漆器扇子七寶器竹箸佐々飛白絞木綿縞木

市街及勝邑

綿金襴燒豊樂燒不二見燒元結團扇綿フランネル麥藁紐一開張建具佛
 檀龍吐水槍細具ノ諸器具等ナリ
 名古屋ハ積戸口ノ三者ニ於テ遠ク三府ノ市區ニ及ハサルト上記ノ如
 シ然レモ生命ノ親ナル飲料水ノ如キハ家々皆井ヲ穿テ其水清澄掬ス
 ヘクシテ遠ク上流ニ向テ水管ヲ通スルノ用ナク又河水ヲ酌ミ盆潭ヲ
 買ノ勞ナク土地概テ高燥ニシテ陽候河泊ノ侵害ナク屋舎ハ練瓦石造
 ナラスト雖モ坐上風帆ヲ見ルニ至ルカ如キノ祝融ナク氣候調和シテ
 酷熱甚寒凌キ難キヲ知ラス又雨師風伯ノ襲來少ナク又地震降雹等ノ
 激災少ナシ加之帝國本州ノ中心ニシテ兩京神濱ノ中間ニ在リ而シテ
 南方ニ太平洋海灣ヲ控ヘ北ニ水曾ノ巨流ヲ帶ヒ陸ニ瀧車アリ海ニハ
 瀧船實ニ天然ノ良市區ト謂ハサルヲ得ンヤ

市街及勝邑

帝國ノ中心ニ斯ノ如キ良市區アリ兩京ノ中間ニ斯ノ如キ良市區アリ
 斯ノ如キ良市區ハ豈他ニ得易スカランヤ嗟、市中ノ豪商紳士ヨ斯ノ
 如キ良市ニ居テ等閑ニ經過スル勿レ吁、全市ノ資本家ヨ此ノ如キ良
 市ヲシテ金鱗城ノ如ク光輝ヲ發揚セシムルコトアレヨ
 熱田ハ愛知郡ノ南端ニ在テ南面海ニ瀕シ西端堀川ニ沿ヒ東方鐵道ニ
 接シ北部名古屋古渡町ニ連ル此地ハ驛路ナルカ故ニ昔時ハ渾テ旅人
 ニ關スル營業多カリシガ維新後旅客ノ減少セシト共ニ其關係ノ營業
 ニ至テハ大ニ衰廢ニ屬スト雖モ市人ノ耐忍ト奮發トニ依テ目下大ニ
 全市ノ景況ヲ挽回シ而シテ其趣ヲ更進シタル者アリ今此地ニ於ル重
 モナル營業ノ多數者ヲ查察スルニ魚商材木旅舎席蓆茶屋團扇製造舟
 人水揚人夫割烹店等ニシテ產物ハ魚類團扇付木摺付木貝杓子等ナリ

市街及勝邑

名古屋及近在ニ於テ需用スル魚類ハ皆此處ヨリ販賣セシモノナリ又此地ハ所産ノ鱗分ノミナラス西ハ四國九州長備播紀志勢ノ諸州東ハ陸磐常總房相豆駿遠三諸州ノ水産ヲ輸入シ我尾州ノ水産ト併セ更ニ之ヲ四方ニ輸出ス又此熱田ハ勢州四日市桑名津神社等ノ諸港ト交通頻繁ニシテ常ニ漁烟ハ南海ヲ掩ヒ漁笛ハ東空ニ奔リ海陸ノ便甚タ多シ故ニ輪蹄絡繹シテ市廛萬貨輻湊ス實ニ東海道中ノ一大要津ト謂ツヘシ然リ而ノ全地ノ総積ハ凡ソ九十二町歩ニシテ之ヲ十六ヶ町二分チ其繁昌ノ重モナル町ハ須賀、神戸、傳馬、大瀬子(熱田)神宮御鎮坐ノ地ハ新宮坂町ト稱ス)等ナリ廣袤ハ東西僅カ二十町ニ過キスト雖モ南北殆ント二十六丁アリ其位置ハ東經百三十六度五十四分四十五秒北緯三十五度七分二十秒(神宮前)ニ居リ高距ハ神戸海岸ノ華表前ニ

市街及勝邑

於テ五尺一寸神宮南門前廿九尺余北部ノ最高凡ソ四十二尺ナリ(此地昂地ハ水害ノ患ナシト雖モ海岸近キ卑低ノ地ニ至テハ時ニ海水溢漲ノ患害アルニ由リ常ニ相當ノ備ナカルヘカラス既ニ明治二十二年九月十一日暴風アルニ際シ午后第七時即チ滿潮時ニ當テ俄然高潮襲来シ神戸ノ駿河屋前高距十二尺七寸ノ点ニ迄侵漲セシコトアリ須ラク記憶スヘシ)戸數ハ四千五百四十余戸人員ハ一萬七千二百五十余人アリテ郡衙警察署裁判所憲兵首部第此處ニ設置セリ是レ尾州第二ノ小都會ナリ

津島ハ海東郡ノ西部ニ在リ向島ト東西相連接スルカ故ニ共ニ通シテ津島ト稱ス即津島神社ノ所在地ニシテ(神社ハ向島ノ方ニ鎮座アリ)四方ノ信者輻輳スルノミナラス海東海西ノ諸村落ハ概チ此處ニ米テ

市街及勝邑

産物ヲ鬻キ又用品ヲ買フ故ニ市況雄富列肆繁錯ニシテ車馬往来憧々絶ヘス産物ハ津島蘇及鯉鮒鰻等ノ水産物白雪柜あかだ等ナリ而シテ其位置ハ東經百三十六度四十三分五十秒北緯三十五度一分三十三秒廣袤ハ東西十一丁南北十二丁(向島ヲ通算ス)ニシテ郡衙警察署モ此處ニアリ即チ尾州第三ノ小都會ナリ

稻置ハ丹羽郡ノ北部木曾川ノ陰ニアリ元成瀬氏ノ城下ナリシニ由リ城山(城ハ白帝城ト稱ス今ハ公園地ナリ)ハ北端木曾川ニ枕ンテ聳ヘ街衢ハ城南縱横ニ亘リ商工ノ肆塵稠密シ郡ノ東北及濃州地ノ咽喉タリ位置東經百三十六度五十六分四秒北緯三十五度二十二分四十五秒東西十一丁南北十三丁アリ物産ハ犬山燒ノ陶器、忍冬酒、菊箭、鮎等ナリ殊ニ木曾川ノ光景公園ノ風致ハ文人騷客ヲ拘引スヘシ是レ尾州

市街及勝邑

第四ノ小都城ナリ

一宮ハ中島郡ノ東部ニ在ル東西九丁南北十四丁ノ連擔ニシテ尾州一ノ宮國幣小社真清田神社ノ鎮坐アリ且ツ瀛車ノ停車場アルト岐阜街道ニ沿フト國ノ中部ナルトニ由テ自然ノ繁况備ハルノミナラス三八ノ日ハ大ニ市場ヲ開ク之ヲ一ノ官市ト稱シ有名ナリ此市日ニハ郡内ハ勿論名古屋岐阜等ヨリモ往來シ頗ル雜沓繁昌ス而シテ商賈ハ奮發多ク又甚タ熟練ノ名アリ産物ハ綿、木綿縞、木綿、藍染、穀類等及綿繰轆轤等ナリ而シテ此地ニハ郡衙ヲ置カサリシト雖モ裁判所警察署監獄支署等ノ設置モアリテ名邑ノ一端ヲ表スル者ノ如シ

半田ハ知多東浦ノ中央(衣浦ニ瀕ス)ニシテ南ノ方成岩村ト相連リ其地域甚タ廣カラスト雖モ市邑殷富ニシテ列肆飾ノ如シ蓋シ是レ南郡

市街及勝邑

ノ第一市邑ナリ其生産物ハ清酒清酢ニシテ皆海陸ノ便ニ由リ東京及
 地方ニ輸出スト云(郡衙警察署電信局停車場等此地ニアリ)
 龜崎ハ半田ノ一里余北方ニ在テ衣浦ニ面スル一港ナリ有名ノ醸酒家
 ハ比屋覺ヲ連子四方ノ運船ハ港口ニ輻輳ス亦是既富ノ一市邑ナリ(一
 此地頗ル高低アリ商戸及連擔スルモノハ其低地ニアリ)
 大野ハ知多ノ西浦ニシテ遙カニ半田ト背後ノ位置ニアリ其區域廣瀾
 ナルニ非サレモ稍ヤ街衢ノ景狀ヲ爲シ又港邑ノ趣向ヲ爲ス且浴潮場
 ヲ以テ有名ナリ故ニ炎暑ノ候ニ至テハ四方ノ浴客雜糞ス而シテ此地
 ノ産物ハ大野味噌溜リ、魚類、鯛煎餅、青海苔、一口香等ナリ
 常滑ハ大野ノ一里余南ニ在ル小港ニシテ東西ハ狭マク南北ハ長シ居
 民商肆工漁ト雜處ス産物ハ陶器土管及及海産ナリ而シテ近時頗ル繁

市街及勝邑

榮ニ至レリ

枇杷島ハ西春日井ニ在テ橋東ヲ枇杷島町ト稱シ名古屋市ニ連リ橋西
 ハ下小田井ニシテ之ヲ通稱西枇杷島ト云フ素ト一線ノ街道ニ過サレ
 モ近郡ノ蔬菜ヲ此處ニ蒐メ毎朝青物市ヲ爲ス其雜踏混糞言ヘカラス
 鳴海ハ愛知郡ノ東南ニアル東海道驛次ナリ幅員狹シト雖モ通街頗ル
 長シ産物ハ鳴海絞醤油麥藁紐等アリ
 有松ハ鳴海ノ十丁東ニアリ又東海道ニ沿フテ商塵ヲ列ス有名ノ有松
 絞ヲ鬻ク所ナリ
 小牧(東春日井)横須賀(知多)蟹江本町(海東)岩倉(小折)丹羽(稻澤)
 萩原(起)中島(等)ハ民居稠密商農雜處スル所ニシテ是亦勝邑ナリト
 雖モ列記スヘキ事項少ナキニ由リ茲ニ之ヲ分記セス

第七節 港灣

港灣

熱田港ハ幅員狭フシテ南北長シ兩岸新田堤防ニシテ堀川此處ニ注ク
 泥沙常ニ沖積シテ浚漂時ニ行ハサルヲ得ス舟楫入ルニ難フシテ布帆
 出ルニ易シ運船算多クシテ港内余地尠シ大船時ニ投錨アリテ波止或
 ハ小ナルヲ患フ港口南面シテ海底甚々淺シ干満潮ノ差ハ六尺四分ニ
 シテ干満時ハ稍ヤ遅緩ナル方ナリ（此港満潮ニハ大船入ルヘシト雖
 氏干潮ニ至テ入ルコト能ハス遙ニ三海里外ニ投錨スルヲ常トス然ル
 ニ此港ノ淺キヲ名トシ實際入ル能ハサルニ非サル時ニ於テモ或ル瀧
 船等ハ遙カニ港外ニ在テ出入共ニ端船ヲ用フルヲ例ト爲ス是レ端船
 舟人ノ營業ヲ補助スル一策ナルヘシト雖氏一ハ旅客ニ意外ノ不便ヲ
 感セシメ一ハ自然ノ用ヲ無用ニ歸スルモノナレハ這般ノ弊ハ速ニ矯

港灣

正セサルヘカラサルナリ
 大野港ハ南微西ニ面シ港口ヲ築クニ細フシテ長キ突堤ヲ以テシ其外
 部ハ廣潤ニシテ稍ヤ深ク内部ハ狹隘ニシテ川ノ流末ナリ惜イ哉港内
 甚々深キニアラス干汐時ハ或ハ大船出入スルヲ得ス
 横須賀港ハ港口西々南ニ面シ海岸遠淺ニシテ干汐時ハ凡ソ一丁乃至
 二丁外ニ海底ヲ表ハスヲアリ故ニ運船出入不便ナリト雖氏其十餘丁
 以外ニ出ルニ於テハ大船モ亦投錨シ得ヘシ
 常滑港ハ南端ト北部ト二所ノ港口有テ共ニ西南ニ向フ其海底ハ暗砂
 堆ナルカ故ニ干汐時ニハ大船投錨シ易スカラス然レ氏小船ニ至テハ
 支障ナシト云

須佐港ハ南面ニアリ港内廣大ナラスト雖氏半圓以上ノ灣形ヲ爲シ漁

舟運船出入ス是亦海底深カラス
師崎港ハ弓灣形ヲ以テ東々南ニ面シ西々南ニ羽豆崎ヲ控ヘ港邊暗礁
多シト雖氏(第十一表參看)港口廣潤ニシテ海底深キヲ以テ艦艦巨船
モ亦碇泊シ得ヘシ

港 灣

大井港ハ半圓形ニシテ好灣ナリ但惜ム海底岩石ニシテ錨爪留メ得カ
タキヲ然レ氏海底稍ヤ深キニ由リ中以下ノ運船ハ此處ニ碇泊スルモ
ノアリ其港口ハ東面シ港ノ南ニ又一灣アリ之ヲ片名ノ灣ト云灣内暗
礁危險多シ

武豊港ハ東面ノ大灣ナリ鐵進棧橋以外僅カニ三四丁ヲ出レハ千汐時
ト雖氏巨艦入ルヘシ蓋シ是レ帝國ノ要津ナルヘシ

半田港ハ東南ニ面シ太濱港ト相對シ海岸遠淺ニシテ千汐ハ大船近ツ

港 灣

キカタシ然レ氏離岸數丁外ニ至テハ概子碇泊故障ナシ
龜崎港ハ半田ト粗ホ同シ千汐ハ一層遠淺ニシテ碇泊地ハ距離稍ヤ遠
シ

尾三地理上卷終

版權登錄

明治二十二年九月三十日印刷

全 年十月七日出版

(定價金七拾錢)

愛知縣士族

著作者兼發行者

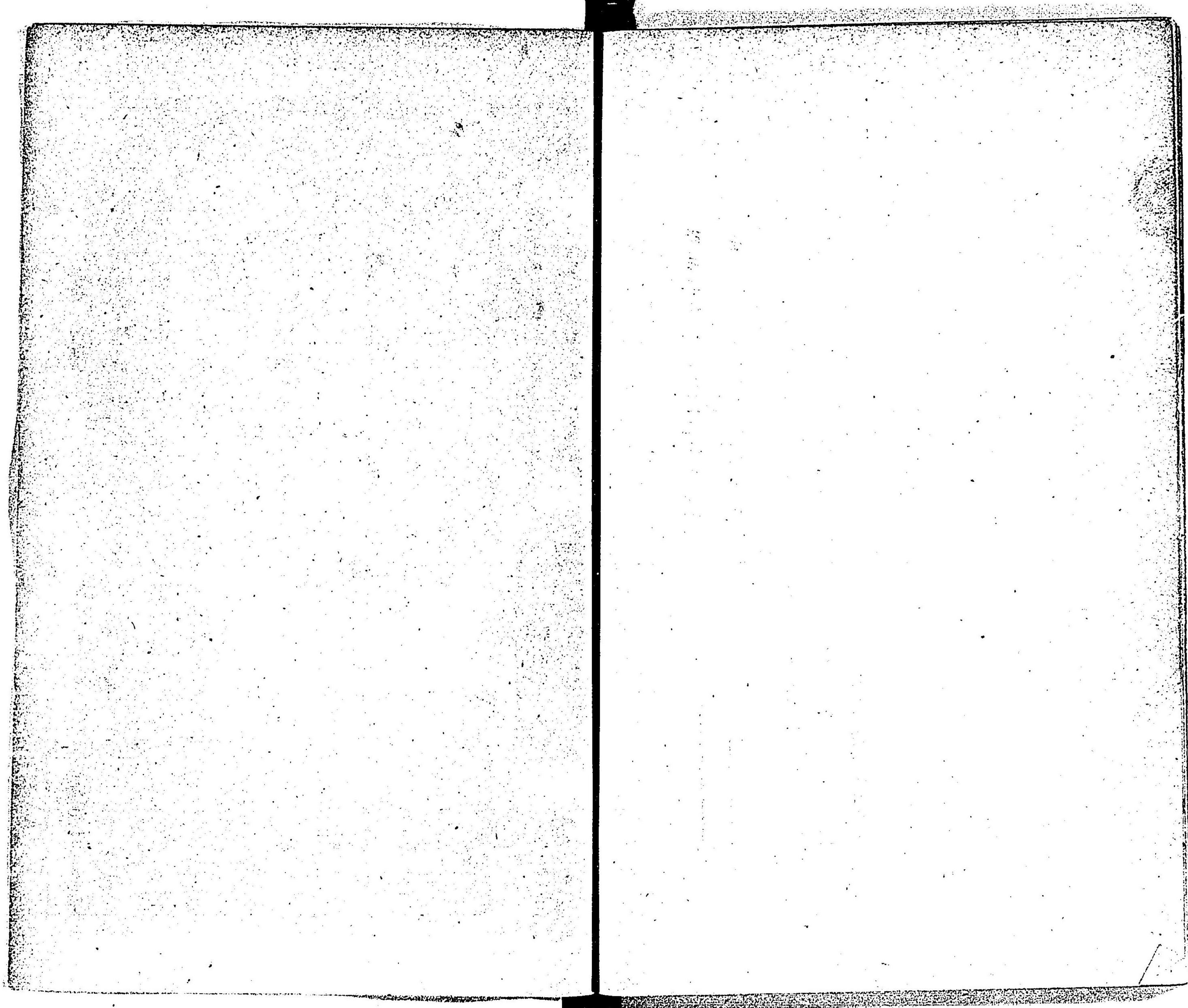
太田正公

名古屋市末廣町百十一番戶

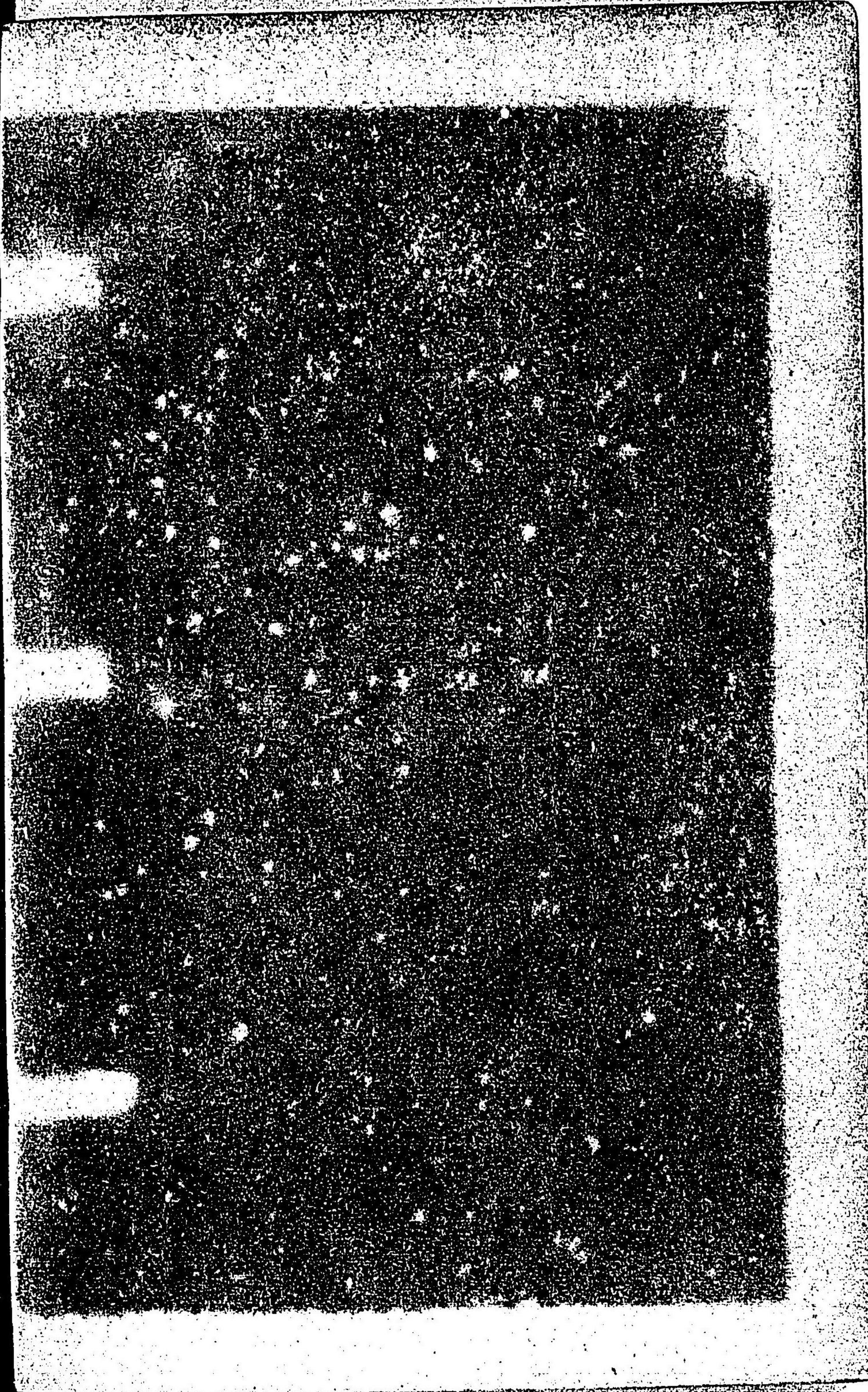
印刷人

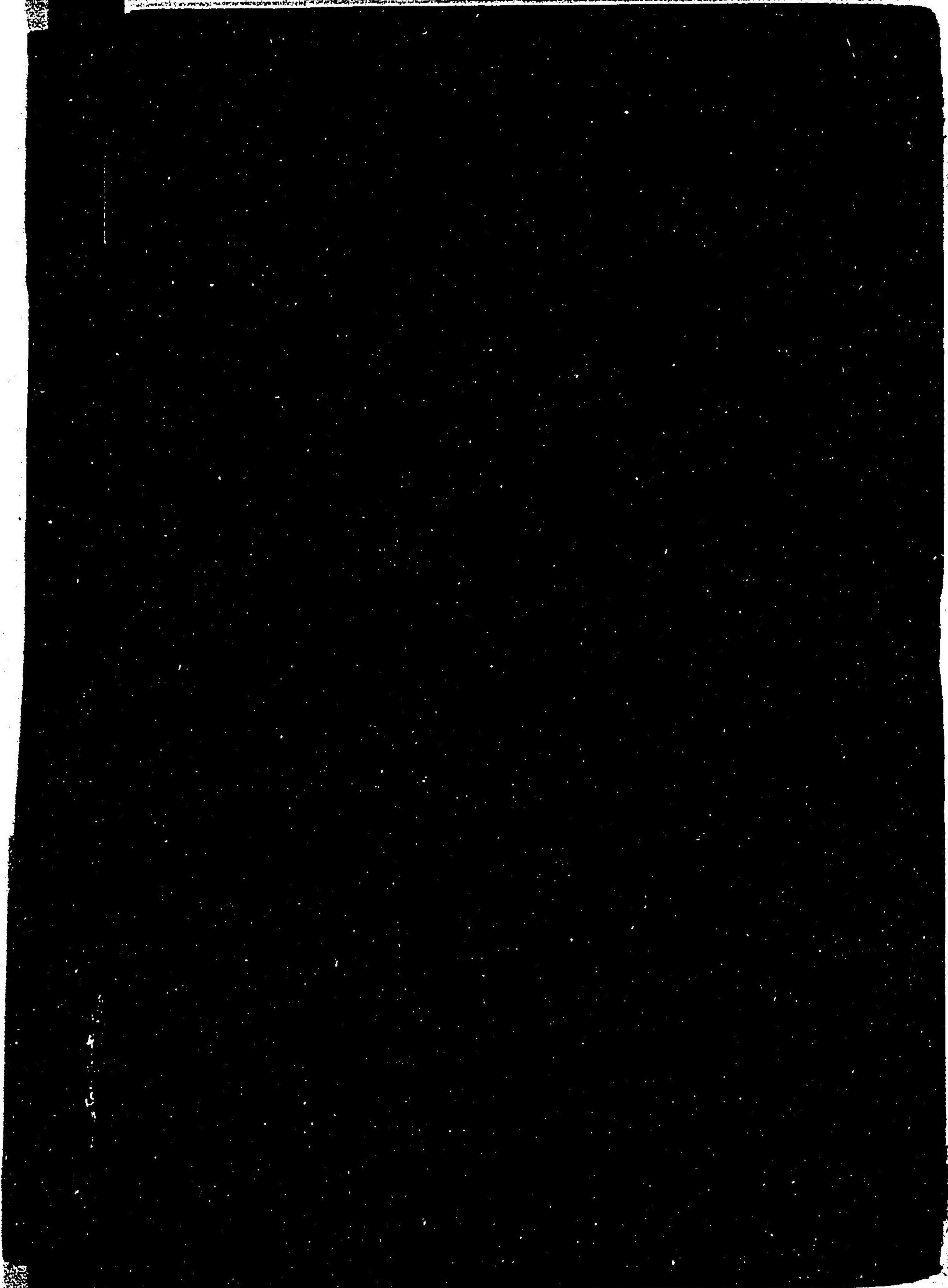
田中有文

名古屋市傳馬町七十番戶



38
79







025049-001-8

38-79

尾三地理

太田 正公/著

上

M22, 23

ADC-2389



